2026 年 2 月 26 日　NO.146 号

障害児・者サークル通信

発行：性教協★障害児・者サークル事務局
一般社団法人 “ 人間と性 ” 教育研究協議会（性教協）本部・事務局
〒 151-0071　東京都渋谷区本町 1 丁目 7 番 16 号　初台ハイツ 1006 号
HP　https://shogaiji-sha.seikyokyo.org

●ミニ連載：原田文孝さん実践に学ぶ―障害の重い人たちにとっての性教育とは②―・・・・・・・・・1
●お知らせ「サークル学習会」「包括的性教育推進法めざすネットワーク学習会」・・・・・・・・・・・3
●第 11 回　せいかつをゆたかに障害児・者性教育セミナー報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
●地域の取り組み / 福井　青年の「性」のセミナー活動報告　・・・・・・・・・・・・・・・・5
●きいてきいて　私の実践　＆　コメント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
●お知らせ「あつまれみんなの声」「ここからＣＡＦＥ⑦」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
●障害と生きる 青年の今から（9）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
●お知らせ「障害児・者サークル総会」「事務局より」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

原田文孝さん実践に学ぶ―障害の重い人たちにとっての性教育とは②―「からだの学習」の実践

施設訪問学級で出会った５２歳の大山さん（仮名）は、７歳で入所して４５年間施設暮らしをしていました。訪問学級の中学部を卒業してから３３年経って、やっと高等部の訪問教育を受けられるようになったのです。肢体障害は重く、車いすでの生活でした。よくしゃべりかけ、わざと反対のことを言ってみんなを怒らせ、「天邪鬼」と言われていました。また、「抱っこして」「おっぱいほしい」などの性的な発言を職員にしていました。私は、５２歳の男性としての当然の性的な興味や性的な要求の現れだと思っていました。

大山さんと同じような性的な興味や要求を持っている５０歳代の生徒３人（男性２人、女性１人）で性についての学習を始めました。施設暮らしで、限られた人間関係や少しの情報しかなく、性に興味があっても学ぶことができないし、情報を得る手段もないのです。福祉の現場では、性教育に取り組んでいるところは少なく、大山さんたちも学んでいませんでした。学習をはじめる前に、「大山さんは、男性ですか？　女性ですか？」と質問しましたが、わからないという様子でした。自分のからだに対する知識は少なく、興味も弱いようでした。一方で、恋愛については興味津々でした。

私は、大山さんたちと、「からだの学習」「ふれあい文化の学習」「恋愛の学習」をしました。今回は、「からだの学習」について報告します。１時間目は、自分のからだの部位の名前を知り、自分のからだを意識することを目標にしました。男性と女性の人形を使って学習しました。大山さんの様子です。

「人形を見せて、『男ですか？　女ですか？』と問うと、正しく答えた。『なぜ』と問うと『なんでも』と答えた。男性の人形の『パンツ脱がして』と言うと『いや』と言った。恥ずかしいようだ。男女の人形を見せて『どこが違う？』と問うと『同じ』と答えた。乳房とペニスとワギナが違うことを言って『名前知っている？』と聞くと、ニヤニヤ笑って、知っているが恥ずかしくて答えられない様子だった。『おちんちん』『おちょんちょん』の名前を伝え、『何するところ？』と問うと、『エッチする』と答えた。『おしっこするところ』『触ると気持ちいいところ』と付け加えると、わかっている